

報告書

作成:2009年7月31日

愛知岳連 岡崎山岳会

山名[山域]	双六岳方面	目的[方法]	花の北アルプス
期間	2009年7月19日(日)20日(月)21日(火)	形態	2泊3日
参加人数	2人		

行動記録:

7/19(日) 曇り後雨

内田宅 13:00 岡崎 IC13:15 = 4:15 = 飛騨清美 IC17:30 - 高山 - 新穂高温泉 P19:30 着(仮眠)

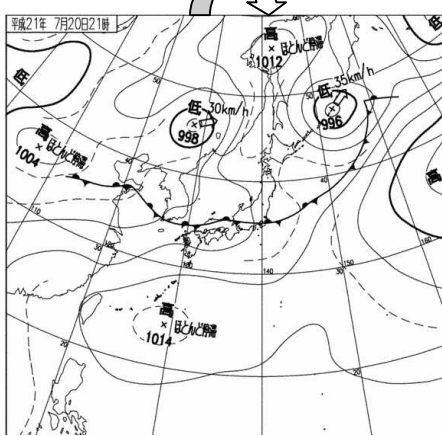
7/20(月) 晴天

新穂高温泉 P5:40 発 - 1:20 - ワサビ平小屋 7:007:10 (1:30) - 秩父沢出合 8:20 - 鏡平山荘 11:0011:15 - 弓折岳分岐 13:0013:10 - 双六小屋 14:40 着(泊)

7/21(火)双六小屋 6:30 発 - (1:10) - 弓折岳分岐 7:40 - 鏡平小屋 8:30 - シシウドガ原 ワサビ平小屋 11:50 - 新穂高温泉 P13:00 - 平湯のもり? 温泉 - 高山 飛騨清美 IC16:30 = 岡崎 IC19:35 - 内田宅 19:40

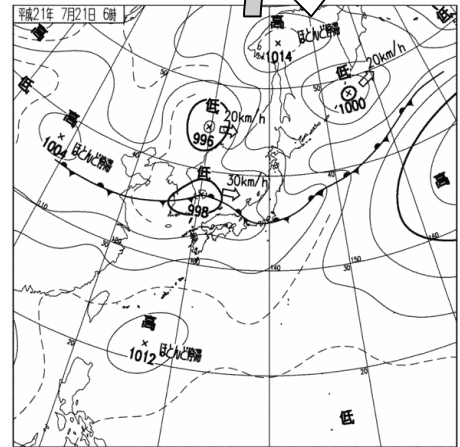
梅雨の晴れ間

20日



あくる日、激しい雨

21日



日誌: 当初の計画は、17日の夜発で黒部五郎から鷲羽岳、双六岳と北アルプス縦走であった。しかし、梅雨がまだ明けず、計画が再三変更になった。本当に天気の詳細を立てるのは難しいと感じた。特に、天気図を書いて、天気を予報して計画をそのたびに変更してくる CL には、大変お世話をかけた。折りしも、北海道での大量遭難が報道される中、天気の読みと寒さ対策の必要性を痛感した。

梅雨の晴れ間を狙って、道の安全な新穂高から入山することにした。高山から新穂高へ向かう道筋の川は水煙を上げて音を立てて流れており、怖いくらいであった。新穂高の川沿いの無料 P も水没していないか心配したくらいである。明日の好天願って仮眠。翌朝は雲の多い夜明けであったが、天気は明るくなってきたので期待した。10キロの荷物が重く、予定通りに歩けるか心配になった。ロープウェイ横の道から長い林道を歩いた。川の水は美しい水色に澄んでいたが、荒々しい勢いで流れていた。秩父沢の出合が渡れるか心配したが、大変丈夫な橋であり、勢いよく流れる川を下に見ながら渡った。

登っていくうちに、青い空に緑の山々がそそり立ち、夏山の美しい風景が展開してきた。槍ヶ岳のとんがりの頂も垣間見られた。2時間ほどで鏡平小屋に着く。なるほど、絵葉書に出てくる風景どおりで、鏡平の池に槍・穂高の山々が映る。最高である。小屋で食べたかき氷は最高!

小屋から弓折岳分岐までは、様々な高山植物が咲き乱れ、登る足もつい鈍りがちになる。エンレイソウ、キバナスミレ、キヌガサソウ、チングルマ、ミヤマキンバイなどかわいらしい花が風に揺れる。分岐で休んでいたが、昨日登った人が、「昨日の激しい雨で、残雪が1メートルほど流れた」と驚いていた。道も川のようになっていたらいい。天気のよい悪いで、天国と地獄との差であろう。弓折岳を越えると、遠くに鷲羽岳が見え、そのふもとに双六小屋の赤い屋根が見えた。鷲羽は百名山の貫禄を見せていた。双六山荘で鷲羽の見える最高の部屋に案内された。泊り客は少ない。CL が天気図を4:00にとって明日の計画に役立てるといので手伝った。15分にわたる放送を記録、天気図に落とす。予想をする。山に入るとこういったことがとても重要であると今回痛切に感じた。しかしながら、無防備に登山してくる登山者が多いこと、山小屋も正確な情報を流すことができないことなどを感じた。天気図のことをもう少し勉強しなくてはと反省した。

翌日は、半日持つかと思ったが、夜半から激しい雨になった。停滞前線が夏山シーズン到来の障害になっていると感じた。ピークハントを諦め、雨の中を下山した。

P でアクシデントに見舞われたが、山岳警備隊のお兄さんに優しくしてもらって大変教訓になった。

感想: 天気図の勉強をもう少ししなくてはと痛感した。日々天気図を見て予想する訓練をしたいと思う。